

第22回 西日本SR経営労務センター・経営労務協会交流会 会議録

- ◆ 日時 令和5年10月20日(金) 13:30~15:30
- ◆ 場所 三翠園 高知県高知市鷹匠町1-3-35
- ◆ 参加組合 滋賀県SR経営労務協会・京都SR経営労務センター・大阪SR経営労務センター・兵庫SR経営労務センター・奈良SR経営労務センター・和歌山県SR経営労務センター・鳥取SR経営労務センター・島根SR経営労務センター・岡山SR経営労務センター・広島SR経営労務センター・広島県SR経営労務センター・山口県SR経営労務センター・徳島SR経営労務センター・香川県SR経営労務センター・愛媛SR経営労務センター・高知SR経営労務センター・福岡SR経営労務センター・佐賀SR経営労務センター・長崎SR経営労務センター・熊本SR経営労務センター・大分SR経営労務センター・宮崎SR経営労務センター・鹿児島SR経営労務センター・沖縄SR経営労務センター
計85名
- ◆ 来賓 全国社会保険労務士会連合会 会長 大野 実 様
全国社会保険労務士会連合会 業務部企画・広報課長 梅木 祐太郎 様
- ◆ オブザーバー 高知県社会保険労務士会(5名)
- ◆ 次第(司会 高知SR経営労務センター 監事 濱田 剛正)
 - 開会の辞 高知SR経営労務センター 副理事長 秋山 直也
 - 開催県理事長挨拶 高知SR経営労務センター 理事長 佐々木 泰介
 - ご来賓紹介
 - ご来賓挨拶 全国社会保険労務士会連合会 会長 大野 実 様
 - 各SR紹介
 - 全体会議
 - 休憩-
 - 講演 講師 元高知県立坂本龍馬記念館学芸課長/学芸員
前田 由紀枝 様
 - 次回開催県の決定
 - 閉会の辞 高知SR経営労務センター 副理事長 高橋 卓弥
- ◆ 議事内容
 - 1 懸案事項とそれに対する対策と対応について
 - 2 その他協議を希望する事項

13時30分 交流会開会

◎資料説明等（濱田監事）

◎開会の辞（秋山副理事長）

◎開催県理事長挨拶（佐々木理事長）

◎ご来賓紹介（濱田監事）

全国社会保険労務士会連合会 会長 大野 実 様

全国社会保険労務士会連合会 業務部企画・広報課長 梅木 祐太郎 様

◎ご来賓挨拶

全国社会保険労務士会連合会 会長 大野 実 様

◎各SR紹介（濱田監事）

事務組合名を濱田監事が読み上げ、ご出席の各SRが起立一礼（来高23SR、開催県SR、オブザーバーの順）

◎全体会議

1 懸案事項とそれに対する対応と対策について（各SR発表）

滋賀県SR経営労務協会

現状は特になし。

京都SR経営労務センター

●電子申請

近況としては、5年度から始めた電子申請を徐々に順調に進めているところ。

大阪SR経営労務センター

●システム乗り換え

今回のランサムウェア攻撃により、大きな被害を受けた。

年度更新の時期と重なっていたため、会員社労士あるいは委託事業主に対して非常に大きな迷惑をかけた。対応として、現システムの使い勝手やアフターフォローの問題で声があがり、これを機に今後継続して使っていいものか議題にあがった。

正副会で検討のうえ理事会で“違うシステム会社に変えていこうではないか”という形で承認を得た。オフィスステーション（エフアンドエム）の他3～4社に見積りを取って説明を聞き、その中から一定の方向性を決めることができればと思っている。

また、他県SRとも色々と協議しながら進めていければと考えている。

●電子申請

特に進めていかなければならないのは電子申請の方で、現在は雇用保険の被保険者関係の届出（喪失、取得、離職証明書）を対応しているところ。今後は労働保険の各種変更、成立などすべて含めて電子化（電子申請）ができるような、既に一部取り組んでお

られるSRもあるとお聞きしますので、情報収集しながら範囲を広げていきたいと考えている。

兵庫 SR 経営労務センター

●使用システム

全国SR、西日本SRともに資料には「独コン」のみの表示なので、各SRが使用しているシステム及び概略的なものでいいので仕様などを知りたい。

●システム乗り換え

乗り換えをするかどうかを検討している段階で、常任理事会をシステムの委員会として、情報収集等を行っているところ。

一番の問題が、会社に対する不信感。

- ・ネットへの掲載情報やメールの配信情報のみでハッキリした情報が出されない
- ・データの提供について最初は“ある”と言うが後になって“ない”とコロコロ変わる
- ・値上げの交渉も毎年一・二度あるが相手にしなければそのまま
- ・大阪と兵庫に同日に電話をかけてきて双方の金額が違う

などの問題があり、不信感が募っていった。

今回の件で余分なお金もかかっており、離れていくクライアントもいるので値上げを言ってくるのは必至だと思う。

今、値上げの話をするさらに離れていくクライアントが増えるだけなので、来年の3～4月頃かと考えている。

皆さんお使いの独コンの仕様とかわかれば、より多くのシステム会社に見積もり合わせとか内容合わせができるのではないかと思っている。

奈良 SR 経営労務センター

●社労士会員関連

年度更新の事務手続きや保険料の納付で、非常に迷惑をかける社労士会員がおり、再三の督促、会長・副会長による弁明聴取会を行い、簡単な処分を科した。

●システム乗り換え

ランサムウェア攻撃の件に関しては、本県もかなり困難を極めたが、大阪SRや兵庫SRと違い件数が少ないため、事務局でCSVファイルのデータで労働局から提供されたものに打ち直して年度更新を作成。

その後、システム会社よりオンプレ版が出され、既に作ったデータと突合せたところ不整合はなかったので労働局へ提出し、間に合ったという状況であった。

システムがこのままでいいのかなと少し思うところはあるが、事務局からは「今までのものが使いやすい」という意見もあるので、慎重に考えたいと思っている。

和歌山県 SR 経営労務センター

●インボイス制度

都道府県によって税務上の“収入”の認識の差があるようにも伺っているので、いろんな情報をお伺いしながら対応を検討している状況。

●システムの乗り換えについて

総コンシステムを使用しているが、前々からシステム変更を検討していたところ。問題のあったシステム会社を含め 2 社ほどとかなり詰めて考えていたところだが今回の問題により白紙に戻した状態にして、皆さんの意見等伺いながら進めていきたいと思っている。

鳥取 SR 経営労務センター

●電子申請

電子申請の件数が伸びていない。地域性で、ほとんどの会員がハローワークから車で 3～4 分のところにあり、お客さんのところに行ったついでにハローワークに寄って帰ればいいのかなどといった考えになっている。

●年度更新の報告用紙について

賃等報告について、各会員からの様式が統一されていないため事務員が困っている。対応としてデジタル化を考えているが、ランサムウェア攻撃の件もあり、今日の協議の場をお借りして、ご意見を伺いたい。

島根 SR 経営労務センター

●事務組合運営

もともと社労士会の一室を借りていたが、守秘義務の関係があり別の場所で一本立ちするなかで、総会において「社労士に対する還元金が少ないのではないか」という質問が社労士会員から出された。

現在、1 社あたり 3, 0 0 0 円を還元しているところ、他県 S R はどのような形で還元しているかお聞きしたい。

岡山 SR 経営労務センター

●システム乗り換え

6 月にランサムウェア感染という事態が発生し、他県 S R への照会、労働局や労保連への状況連絡、厚労省への要望書の提出、事業主への電話・F A X・メールなどでの説明、HPでの説明などを行ってきた。

この調査票が送られてきたときは完全復旧しておらず、現システムを使っていくか理事会でも検討中のところ、会員から「できれば変えないでほしい」と要望があった。

「他のシステムを使ってやってみる」と言われた理事がいて、使用結果を聞いたが「やや扱いにくい」ということで、結果として現システムを続けて使用することとなった。

広島 SR 経営労務センター

●システム関係

特にないが、他県のSRより出たランサムウェア攻撃の件で苦労はしたが、申告・徴収が滞りなく期日までに終了した。

広島県 SR 経営労務センター

●システム関係

SaaSシステムがサイバー攻撃を受け、年度更新の際中であり大変だったが、システムダウンするまでに7～8割方しており、残りの2～3割方はバックアップで保存していたデータを活用して間に合わせた状況。

インボイス制度の導入により第2期分からの通知書に会費請求書を添付することとなった。エムケイシステムにシステム変更の依頼したところ10月10日に出来上がり、間に合ったところでホッとしているところであった。

ランサムウェア攻撃を受けたことで様々な問題が出てきたことにより、大阪SR、兵庫SRが乗り換えを検討しているようだが、我々は後発のためついていくしかないのだが、内部で話したところエムケイシステムに替わって、それだけのレベルの仕事ができる会社が日本にいくつにあるのかという風に思っている。

乗り換えを検討する前に、各SRで対応するのではなく窓口を一元化して、値上げの件についても一元化した窓口を通じて受けるという風にして、エムケイさんが20年の歴史を持っているので、これをうまく活用して育てていくという風な考え方になれないかと思っている。

山口県 SR 経営労務センター

●危機管理

危機管理、大規模災害や情報セキュリティ等に対するマニュアルや規定集ができていない。昨年、名古屋で全国交流会があったときにこういう問題が出て、既に整備されているSRを参考に理事会で検討したが、そのまま山口県SRに当てはめていいものか色々と意見が出され、まだ未整備となっているので、今年には整備したいと思っている。

また、インボイス制度が10月から始まっているところ本県は何もしていないが、他県SRはどのような対応をされているがお聞きしたい。

徳島 SR 経営労務センター

●システムの乗り換えについて

話題に上っているソフトの件だが、本県も S a a S システムを使っており大変な思いをしたところである。

乗り換えも検討したが、まだまだ小さな県で交渉する力もなく、皆さんについていくのかなという風に考えている。全体の会で良い意見が出れば、それについていきたいなど考えている。

●会員社労士関連

社労士が S R の仕組みを理解していなかったり理解していても事業主にきちんと説明できていなかったことがあり、社労士と委託解除したのに S R とは委託解除しないでほしいとか、高齢のため社労士業ができなくなった会員の後処理などが昨年かなり大変だったので、そのあたりをどうするかというところで会の組織整備をおこなったところである。

対応として、事業主会員への説明書を作成し、それを読んでいただいて確認を取るだとか、社労士会員に S R の仕組みをしっかりと理解してもらい事業主会員に説明するというのを今後徹底していくということで対応した。

香川県 SR 経営労務センター

●業務の効率化

本県もシステムはエムケイシステムを使っており、大変な思いをしたが、何とか年度更新を終えた。ただ、今後に関してだが、S a a S システムは使用していないので、業務の多くを事務局が担っている状況になっている。

年度更新の入力に関しても、会員から C S V ファイルを送ってもらいある程度の効率化は図っているが、どうしても手入力が必要な情報が多々あり、それが事務局の負担になっている状況である。

今後、どのように業務を効率化して、特に業務が集中する年度更新時期をどう乗り越えていくか、会員と協議しながら進めていく。

愛媛 SR 経営労務センター

●システムの乗り換え

本県も S a a S システムを利用している。

S a a S システムを最初に作成するときは入念に打合せを行い聞く耳も持っていたが、作成後は結構高飛車で聞く耳も持たない。

このシステムを使用している S R からも使い勝手が悪いという不評があった上でのこの騒動なので、個人的には見切りをつけないといけないかと考えているが、本県の理事会で決めていくこと。

併せて、西日本だけでなく全国のSRで足並みを揃えてやっていく必要があることだと考えている。

世話人会というのがあり、京都、大阪、福岡と本県が関わらせていただいているが、来月あたり世話人会を開いて方針を決めていこうという考えがある。

できれば連合会からもご支援をいただきながら、できるだけ安価な費用で開発し、運用も今以上に低価格または今と同等のシステム会社があれば、そこに乗り換えてやっていければいいかと考えている。

福岡 SR 経営労務センター

●システムの乗り換え

SaaSを今後どうするかというところで、現在、本県ではシステムの乗り換えか継続かということについては、答えがでていない。

理事会へ諮り、価格面等で替わりの会社がうまく見つければいいのかなという状態で現在は決まっていないという困った状況である。

中井会長がお伝えされたように、世話人会でその点について重点的に話をしようかなとなっているところ。

世話人会のウェブ会議でSaaSについての進捗状況、使用している世話人会だけの4つ5つのSRで会議を開いたが、それぞれが単独でアプローチして見積もりを取っている段階で、まだまだどうしたものかというところが状況である。

福岡では、来年度の年度更新はSaaSを使っていくしかないのかなという状況。

●社労士会員関連

全国、西日本において、問題会員が一定数必ずいると思うが、本県でもルーズな会員が数名いる。

事務局から再三の連絡をしても連絡が取れない。電話、メール、FAXでも、電話も出ない、メールも返信なし、呼び出しをしてもこない。これも困ったものだと。

まず、期日どおりに提出をしないし、保険料の納付依頼についても担当者からアプローチするという努力も足りない。非常になめているなという社労士もいる。

福岡では、懲戒処分が既定の中にある。

訓告、会員停止、退会勧告、除名の4種類だが、除名の実績はない。

この前は、退会勧告を行い1～2名退会いただいたところだが、除名までして、そのあと争いになったときに社労士だけでなく委託事業主からのトラブルで訴えとなったときの対処を考えると除名までは処分しにくいというのが現状である。

それで、昨年度「綱紀是正委員会」を新設し処分に対する規定を作り直し、手順を何回も踏んで、弁護士等の助言もいただきながら訴えられても後手に回らないような

システムを取っていかざるを得ないというところで動いている状況。

佐賀 SR 経営労務センター

●未手続事業一掃事業

労保連がやっている「労働保険未手続事業一掃事業」の関与率が非常に低い。

また、労保連労働災害保険の契約件数について、労保連の年度の状況がでるが、いつも本県はワースト1である。原因は何かというと、主力となる社労士の活躍・活動がやや足りていないのではないかと考えており、情報提供していただけるのであれば他県の取扱いについてどの程度か知りたい。

●一人親方

フリーランスの特別加入については、10月4日に労働法政策室労災保険部会において拡充するという方向性の話が出たが、本県は一人親方の設立ができていない。様々な業種に亘っているフリーランスを特別加入団体が包括的に扱えないかという希望を持っている。保険料率も様々出てくると思うが、事務組合がフリーランスを取り扱える団体となって加入を拡充していくというところに取り組みればという期待感を持っている。

●会員数拡大

佐賀県会の本会の開業社労士が約100名、そのうちの約3割（27名）がSRの会員であるが、ここずっと続いていてなかなか会員数が伸びない。当然のことながら受託事業所数もほぼ横ばいというところ。

今後、いかに会員数を増やしていくかというところが悩みであり、他のSRはどのような形で会員を獲得されているか、特に新入会員となられた方はどういう形でアプローチされたかお聞かせいただきたい。

ちなみに、政治連盟の加入率は97%と全国トップレベルというところで、政治連盟と同じような形でアプローチできたらいいのかなとは考えている。

長崎 SR 経営労務センター

●一人親方

今までの発表をお聞きして、長崎でも一人親方があるが、社労士が介入せずに直接一人親方が来て手続きを行っている状況になっているので、他県SRでは、一人親方についてそれぞれ社労士が付いているかお聞きしたい。

●事務組合会計

今年の労働局の監査で、例年であれば指摘されないことが労働局自体に会計検査院の監査が入り指摘されたということで、すごく細かいことまで指摘を受けた。

懸案事項については細かいことなので、特に協議をいただく必要はないが、その他協

議を希望する事項として、母体と事務組合の会計を分けて行っているか。

熊本 SR 経営労務センター

●システム乗り換え

総コンシステムを基本的に使っている。

データベースとしてはエクセルで管理していたところ、件数が多くなってきたので業務ソフトを導入しようというところで、社労夢を導入したばかりであった。

そのときにランサムウェア攻撃があり、会員から「情報漏えいの問題は大丈夫か。」との問い合わせがかなりあり、幸いにもクラウドにデータを入れる前であったので大丈夫である旨の説明をしたところである。

今後、システムを使い続けていいものか、社労士会員の心配を払拭するものがあるのかどうか事務局レベルでは不明であり、また技術的なことは事務局で説明できないので悩んでいる。他県SRの状況を、この会でお聞きしたかったところ。

大分 SR 経営労務センター

●危機管理

危機管理対策というところで、本県もエムケイシステムを使用している。

値上げが予想されるところで、どう対処するか悩んでいる。

●インボイス

現状本県では登録しないとしているが、登録されている県もあるようなので、意見交換ができればと考えている。

宮崎 SR 経営労務センター

●システム乗り換え

本県は、独コンでセルズを使用していたが、今回労保連に加入したことを機に総コンに移行する予定。

●未手続事業一掃事業

労保連に加入したことにより、適用促進の制度を利用するにあたって、調査説明費や成功報酬費を会員に全額支給しているかどうかというところを、他県SRにお聞きしたい。

現段階では、全額支給プラス組合から補填できればいいのかなというところで検討している。

また、対応してくれる推進員が出てこない場合、どのような対応をされているかお聞きしたい。

●事務組合会計

節税対策というところで、コロナ禍において経費が少なくすみ、令和4年度は税金が

増加したということがあり、余剰金を減らすために会員への配当をした方がいいのかなと検討をしているが、他県SRでは何か対策をされているかお聞きしたい。

鹿児島 SR 経営労務センター

●システムの乗り換え

本県もエムケイシステムを使っていた。

サイバー攻撃によりやや遅れたが、あまり影響を受けずに行え良かったと思っている。

昨年廃案となったSR SaaSを復活させていただきたいというのが鹿児島SRの思いである。

●一人親方

もうひとつ気になったのが、大阪SRの一人親方の会員がだんだん少なくなっていると。

鹿児島も同様であり、どのような原因があるのか調べてみたいと考えている。

沖縄 SR 経営労務センター

●総コンのペーパーレス化

労保連との紙媒体のやり取りについて本県は総コンを使用しており、納入通知書、口座振替のお知らせハガキ等の発送について大幅に遅れてしまったという反省点があったため、他県の皆様の動向を見て労保連沖縄支部にペーパーレス化の提案をしてみたいと考えているところである。

●二元適用事業所に係る報告の不備

二元適用事業所における概算保険料や一括有期事業報告書の工数の種類の不備だが、他県SRの動向をお伺いしたいなというところで、事務局としては会員への指導を徹底していくなどを検討している。

●インボイス

現在のところインボイス登録はしていないが、来年4月からの登録に向けて会費の値上げを検討しているところである。

高知 SR 経営労務センター

特になし

―意見・発言―

① 会費

滋賀県SR経営労務協会

2年後に設立30年を迎えるにあたり、その周辺事業の予算を考えていく中で、理事

会で「会費が安いのではないか」との発言があった。会費の改定を考えていく中で、会費の改定を経験されている方がございましたら、情報提供をいただきたい。

経営安定資金がかなり溜まっているが、これについて何か基準があるのか、いつまで積み立てなければいけないか把握できていないので、ご存じの方がいれば情報提供いただきたい。

沖縄 S R 経営労務センター

社労士会員の会費の値上げは、3年前に臨時総会を開き承認を得て値上げした経緯がある。

事業主会員の会費の値上げは、昨年経験している。

今年についても値上げを考えているところだが、通常総会で諮り、承認を得て改定を実行した。

② 独コンのシステムについて

滋賀県 SR 経営労務協会

「ざんまいシリーズ」を利用している。(株)システム総合研究所の製品で「労保ざんまい」「親方ざんまい」の二つのシステムを利用している。あまり普及していないと聞いている。

島根 S R 経営労務センター

セルズを使用している。今年度の年度更新では、雇用保険料率が2段階に変更に伴う年度更新の対応がうまくしてもらえず、電子化分の報奨金が受けられないという事態が生じたため、今後使い続けていいものかと考えている。

沖縄 S R 経営労務センター

総コンを使用している。

使い勝手という面では、保険料が自動計算されるというところで非常に助かっているがデメリットとして、労保連とのやり取りの部分で納入通知書や口座振替のお知らせハガキが紙媒体でのやり取りとなっているため、手間がかかっている。

このやり取りについて、データでやり取りをされている S R があれば情報提供をいただきたい。

③ システム関係

愛媛 S R 経営労務センター

単独の事務組合であれば総コンを使用して作業されている事務組合がたくさんある。

S R は特異な集団で、S R に各社労士会員が持ち込んだり、各社労士会員が手続きを

したりする。

そういう意味では、このSaaSシステムというのは画期的で、そのシステムに各社
労士会員が自分の事務所からアクセスして申告なり手続きができる。

しかし、そのSaaSが使い勝手が悪いということで、再度見直してさらに良いシ
ステムが組めればと考えている。

以前、全国でシステムを作ろうという話があった。

残念ながらダメになったが、今回こういった問題があったので、SaaSのようなシ
ステムの導入を検討しているSRがあれば、乗り換えるSRも含めて足並みをそろえて
導入するとなる価格も下がってくるのではないか。

これは世話人会でも話が出ており、是非これを機に考えていただきたらと思っている。

広島県SR経営労務センター

先般、世話人会からSaaSシステムの問題に関連してシステム変更の検討の有無に
ついてアンケートが来たが、その結果を教えてください。

先ほど、SaaSに入っていないSRで新しいことを考えているのであれば、一緒に
やってみようという発表があった。

SaaSへ初めて加入したのが大阪SRで、広島県SRが加入したのが平成24年。

我々が加入した頃、交流会で連合会の援助も受けながら新しいシステムを構築しよう
と特別のメンバーを構成し、数年間かけて検討をされたが行き詰った。

新しいシステムの構築は、前回の二番煎じではなかという気がする。

ここまでSaaSを育ててきたのだから、問題はあるがまず修正を働きかける方がい
いのではないか。

愛媛SR経営労務センター

アンケートについては、現在SaaSを利用しているSRを対象としたものであった
ので、SaaSを利用していないSRにも全国的に内容は異なるかもしれないが、取る
べきではないかなと考えている。

アンケートの集計はできていないので、でき次第、お知らせしようと考えている。

SaaSを継続してという話だが、「とにかく使い勝手が悪い」その意見がいろんな方
面から出ており、これまでのエムケイシステムに対して結構アプローチしたが、聞く耳
を持たないという状況だった。

加えて、高飛車に出てきたりしたこともあり、世話人会としては他のシステム会社に
依頼するのも一つの方法として、検討を重ねているところである。

SaaSに戻るか他のシステム会社に依頼するかは一切決まっていない。この話の中
で各SRのみなさんはそれぞれ検討いただきたらという風に思う。

大阪SR経営労務センター

エムケイシステムを信頼してずっと使ってきたところ、今回の問題で約2ヶ月間業務がストップしたこともあり、長期的に見てエムケイシステムとはお付き合いできないのではないかとこのところが我々の判断である。

現在は、数社のシステム会社と話を聞き、状況も聞きながら進めていこうということに進んでいる。

一番心配な点は、現システムと同等以上のシステムが作ってもらえるかどうか。

他のシステム会社で、現在と同様規模での対応ができるところがないので新たに作るしかないが、我々と一緒に新しく作ってくれる会社があるかどうかが一番の問題。

あとは、新しいシステムを導入したときに、それぞれ社労士会員が使用しているシステムから乗り換えるために何らかのインバーターのシステムが必要になってくるが、そのインバーターのシステムも含めて一緒にシステムを作れたらということで検討しているところ。

愛媛SR経営労務センター

大阪、東京、福岡は、単独でシステムを作る財力があるが、愛媛は財力がないので、そこに乗っかりたい。乗っかって少しでも安いものに関わりたい。

大阪、東京が、我々にどうですか？と言っただけは、すごくありがたい。

大阪SR経営労務センター

SRの場合は、会員社労士からアクセスができるようにすること。他のシステムとはちょっと違う。それができるのが、今ではエムケイシステムしかない。

それ以外となると、新たに作っていかねばならない。

そうなる、いくら大阪や東京といっても単独ではなかなかできない。

そういう意味では皆さんと一緒にできれば少しでも費用が抑えられるだろうし、いいのではないかと考えている。

全国社会保険労務士会連合会 大野会長

エムケイシステムの問題について、みなさんが不信感を持っていることや大変な思いをしたということについては、まさにご発言のとおり。

何をどう選択したらいいのかわからないという点については、SaaSというのは、いわゆるクラウドサービス、皆さんが言っているシステムサービスはこれを指していると思うが、そこにのっけて色々な作業するシステム・プログラミングとか仕組み自体をそこにおいて色々やっているというシステムがいいか悪いかというところは話が別と思っている。

社労士が必要とする年度更新や算定だとか様々な社労士の仕事の仕組みをデザインし

ていくことについてエムケイシステムは長年やっているもので、それに対する信頼と言うのは、少し引いてみても完成度は高いと思う。

反対に、データを置いてあるところを攻撃されハッキングされて使えなくなったという、要はクラウドサービスをしていることそのものの信頼性について、エムケイシステムがのっけているクラウドサービスの環境がハッキングされる状況だったのか、脆弱性のあるシステムだったのか、あるいはやるべきことをやっていたがもっと強力な仕掛けでやられたのかという議論。

ですから、システム自体は決して見劣りをしないと思っているところですが、クラウドサービスはものすごくお金がかかると思っている。

そういう仕掛けをSRのみなさんが仕組みを作るとすると、デザインして、安全な場所にのっけて、いろんな人がそこに入りながら脆弱性がないように、例えばスマホからいろんなことをやっても侵入されないような仕掛けを講じていくことになる。

そういった仕掛けは、とても予算面でランニングコストが合わないし、限界がある。

エムケイがなぜそういうものに対して十分でなかったか、ほんとに全部わかってもらっていうとそうでもないので、“十分でない”と言い切ること自体は立場上言わないが。

エムケイ自体のビジネスの大きさっていうのは、年間32億くらい。30億くらいの売り上げがあって、毎年2億前後の利益が出る程度の会社。

業界に向けて一番先にクラウドサービスを実施したのは確かにエムケイなのだが、今は何百億、何千億という単位でそういうクラウドサービスをしている企業がいくつもある。

費用面だとか技術的なものとか人の問題とか、そういうことで言うと、30億売上、2億利益を出す規模の会社が、望ましいというかあるべきクラウドサービスを維持できていたかどうかというのは、大いに疑問だということはある。

連合会の会費収入は9億7千いくら。いろんな支出があるなかで、そんなに使えるお金はそんなにない。

エムケイといえど、いま3,000事務所に見舞金10万円払っても3億になり、いきなり赤字になる。

連合会ができることと言うのは、ひとつは業者選択。

いくつもある会社のなかでエムケイがいいのか、他がいいのか、なにを確認しなきゃいけないかと言うような視点から、まずそのチェックをどうしなきゃいけないかということを、先月の会報で載せたのが「IT-BCP」。

どういうチェックシートでどういう対応で、みな自分で決めてくださいね、要はどこを選んだかの責任はあなたたちにあるということ言っている。

いくつもあるなかでSRはエムケイのクラウドサービスを選んだ。選んだ責任はSRにあることになる。

クラウドサービスやっているいろんな企業は、ケタ違いの情報を扱っていて免責事項というのがあって、それは三つ。

天災事変、通信会社が原因、犯罪による提供が不可となった場合。

一番問題なのは、彼らがやるべきことをやっていて、今回の事態になったのか。

今は、免責事項について自分たちがやるべきことをやっていてその中でやられたから被害者だと彼らは言っている。

5億円の保険に入っているが、その保険の免責事項は“彼らが何の過失がない場合”は何も出ない。

「自分たちがやるべきことが十分できていなくてやられちゃった」「自分たちが悪かった」と言ったら保険が出る。ただ、そういうことになると5億6億で補償できるのかということになると、自分の会社を守るためにないと言い切っているのか、本当に胸を張ってないと言っているのかわからないが、そういう状況である。

今回の議論でやはりクラウドサービスはものすごくお金がかかるから、システムはどんなに素晴らしい応用ができるものでも自社サーバーですから。自社サーバーが決して悪いわけではないが、その耐えうるだけの何千億もの訴訟費用ではなくて20億30億ですから。

そういう意味では既に10件くらいの訴訟をするという争うことを宣言している企業とか社労士とかあると聞いているものですから、これから選ぶにあたりそういう視点で議論をしていただいたほうがいい。

10件程度は争うことを示しているが、どこが十分でなかったかというところを立証しなければならないということになると、ひどいじゃないかと、なんとかしてくれということになると、被害者の会といったようなそういうなかで争う姿勢を見せていくことはありうる。

個々には難しいので、今まで連合会がやれることは十分かどうかというところは、いろいろな形でやっています。

先般も、厚労省と社会システム連絡協議会という大手のシステム会社50数社が立会いのもと、エムケイの社長と技術者を呼び出して説明会をやった。

その時のやり取りは秘密で、彼らの言い方は、どうしてもれたかというのは、もっと具体的に技術的なこと説明しろと言っている。

具体的にそこで説明したのは「社労士事務所の顧問先に付与しているIDパスワード6桁からどンドン中に入られた。それ以上のことは技術的・セキュリティの問題で言え

ません。」と言ったが、本当はもっと確認しなければならない。

例えば、悪意のある人が社労士事務所に頼んだとってそんなに簡単に入られていいのか。

その席に私も居たので、説明をするときに「連合会の会長の大野さんもいらっしゃるところですが」と言っただけで、「実は社労士事務所さんの顧問先の付与したパスワードから入られた。その先は説明しません。」と言ったので、社労士が悪いみたいな感じを受けた。

また、「ID・パスワードの付与について様々な条件を付けて付与することは、社労士がやりづらいから、現行となっている。」とも説明があったが、絶対必要であれば社労士だろうと何だろうとあるべきものをやるべきではなかったかということと、だからと言ってどこまでも入って来られると言うのはありえない。

一気に情報が入ったために一旦ここで止め、溜まったら次のところに少しずつ流していくようなものがあると思っているが、無かったのではないか。

その他、「探したら情報が出てきた」とか、探さないと出てこないのかなど、疑問があるのは確か。

連合会は「機密情報委員会」というものを作って、エムケイに来ていただいて説明を求め、十分対処したかどうか検証する必要があるとは伝えている。

ただし、連合会が争う当事者にはなれない。

今後どうするかといったときに、仕組みをデザインするなかでのやり取りはある。それに参加してやって行くことはあっても、それを維持していくためには民間の力の方があって、会は会長が2年ごとに選挙だし、そこを会が維持することは現実的なことではない。

長年検討もしているが、クラウド上の安全なところに入れていて4万5千人の会員がそこに入って・出して・戻ってくるといういろんな人が入りながらもキッチリ担保するというのはものすごくお金がかかる。

20億程度の売上げのときに、クラウドサービスを真っ先にやったところ、8億だったか赤字をだした。

そういうことかというと、選定は難しいが、どこを選んだらいいかというテクニク・チェックリストなりを示しているので、この会社はどうだと議論をしていくなかでこの会社がいいねという風を選んでいくしかない。

選定には、一定の資本力があって、一定の技術者を確保してというところかというと、必ずしも大きい会社でもない。

社労士のマーケットあるいは事務組合のマーケット自体の大きさが、相手からすると

ビジネスになるだけの大きいパイがないので、こっち向いてくれることについても、まずありがとうなんだろうと思う。技術として組みづらいと思う。

2 その他協議を希望する事項

◎奈良 SR 経営労務センター

懸案事項の補足。会員社労士の知識不足というところで、社労士自信が労働保険等の知識がなさ過ぎて自分の事務所職員や顧問先への説明ができず、事務局に丸投げしてくる。事務組合以外のことも質問されることがあり時間を非常に取られる現状がある。

(発言・意見なし)

◎和歌山県 SR 経営労務センター

総コンを使用している。紙媒体を一段階はさむというところでどうしても間違いが発生してしまう。

システムを検討しているのはセルズとエムケイ（SaaSではない）だが、どちらもどこかで人の手が入ってくるといことでエラーが解消されない。

その点、SaaSは画期的なシステムと認識しているが、それだけに今回の問題はショックだったが、今、会長の話を聞いて難しさと言うところもよくわかったし、ますます頭を悩ませている状況で、またご意見を聞かせて頂いたらと思う。

(発言・意見なし)

山口県 SR 経営労務センター

インボイスについて、現段階では何もしていないが、他のSRで何か参考になる特別なことがあればお聞きしたい。

広島県 SR 経営労務センター

SRとしては、インボイス登録すべきではという会員が多く、登録した状況。

10月からは請求書を発行して、登録番号を記し、課税対象額と消費税額を記しということで、エムケイに相談したところ、そういうことも含めてシステムの構築を考えているといわれたので、案を作って大阪まで出張した。

エムケイで対案を考えていて両者協議したわけだが、この件は別料金と言われた。

10月10日にシステムが完成し、2期の納入通知書と一緒に正式な会費請求書として発送できたところ。

香川県 SR 経営労務センター

昨年度、久方ぶりに倒産が出て、管財人がついて粛々と進んでいたところ。

SR の立場としては、顧問社労士が全て対応していただき、その報告を SR にしていただいたところ。

倒産というのはある日突然やってくる事態で、どれだけ未収金がでるのか非常にびくびくした、報奨金飛んでしまったらどうしようみたいな勢いでビクビクした。

ある日突然の倒産とかで、皆さんのところではこのような対応をしたというのがあれば、教えて頂きたい。

(発言・意見なし)

佐賀 SR 経営労務センター

協議事項ではないが、組織規模で抱えている問題は違ってくると思うので、大規模、小規模で抱えている問題が多少なり違うと思う。

S R 組織の規模別、受託件数の規模別で 4 つのブロックに分けた話し合いができないか。

世話人の方もいらっしゃるので、全国 S R 交流会等で実施いただければありがたい。

(発言・意見なし)

長崎 SR 経営労務センター

母体と事務組合の会計を一本で行っている SR はいらっしゃるか。(→2 か所)

一人親方を受け付けるときに、必ず社労士をつけなければいけない SR は。

労働局から指摘があり急遽分けることとなったが、一本で行っている S R は指摘を受けたことなかったか。

滋賀県 S R 経営労務協会

昨年度、監査を受けたとき、資料としては母体にかかわるものと事務組合にかかわるものに分けて提出したが、会計を分けなさいという指導まではなかった。

報奨金の区分経理で、事務組合の方で提出はしているが、今のところ一本にしている。もちろん、親方協会とは分けている。

15時33分 全体会議終了

－休憩－

16時00分 再開

◎講演（濱田監事の演題・講師プロフィールを紹介）

演題 「土佐の風土と坂本龍馬」

講師 元高知県立坂本龍馬記念館学芸課長／学芸員 前田 由紀枝 様

◎次回開催県の決定（濱田監事の紹介のみ）

奈良県

◎閉会の辞（高橋副理事長）

17時05分 交流会終了